

【乳汁検査まとめ】

はじめに

先月に引き続き、上半期の乳汁検査の結果をお伝えしたいと思います。今回は G(+)菌を中心に伝えします。

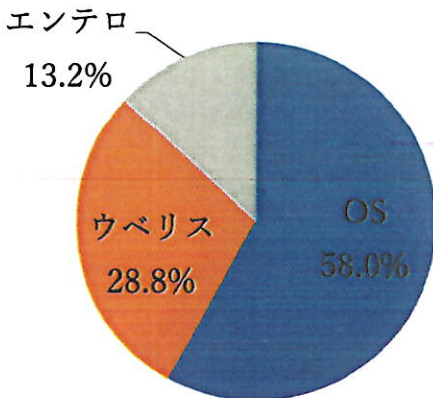
検査頭数は 911 頭（重複含む）、検査分房数は 1739 分房（重複含む）でした。

略語・薬品名対応表

略語	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン	—
Cz	セファゾリン注	セファメジン・セファゾリン
K	カナマイシン	タイニーPK
ERFX	バイトリル 10%	—
ST	トリオプリン	—
T	OTC 注	OTC 軟膏

原因菌種割合

原因菌種割合については、先月私が書いた M 情報グラフ 1 原因菌種割合を参照ください。



グラフ 2 OS 割合

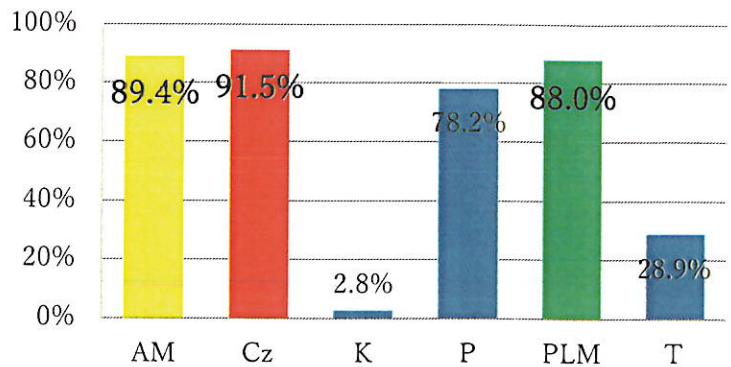
イージーメディア II を用いてオンファームカルチャーを実施している場合は、コロニー性状が OS

の性状を示し、黒変した場合はグラフ 2 の通り 6 割弱が OS、3 割弱がウベリス、1 割強がエンテロコッカスということになります。

次に各菌種の感受性割合を紹介します。菌種の後ろに示された()内の数字は検査数です。

感受性割合

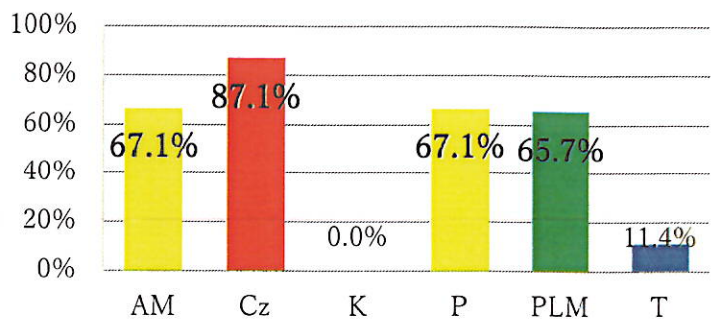
OS(142)



グラフ 3 OS 感受性割合

OS では Cz の感受性が最も高く、PLM、AM と続きました。OS においても T の感受性は低く 3 割を下回る結果となりました。

ウベリス(70)



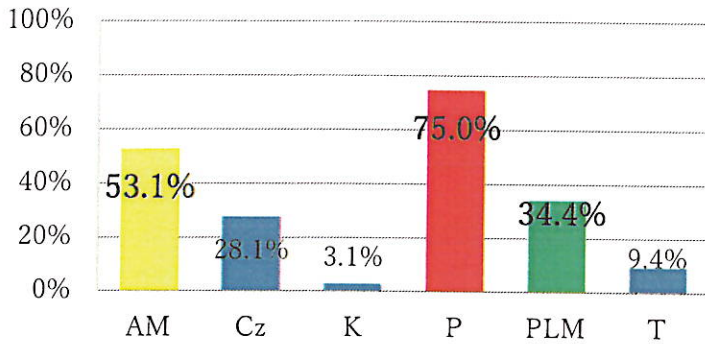
グラフ 4 ウベリス感受性割合

ウベリスでも Cz の感受性が最も高く、続いて AM、P、PLM となりました。OS 同様に T の感受性割合は低く 1 割強となりました。



Total Herd Management Service

エンテロコッカス(32)

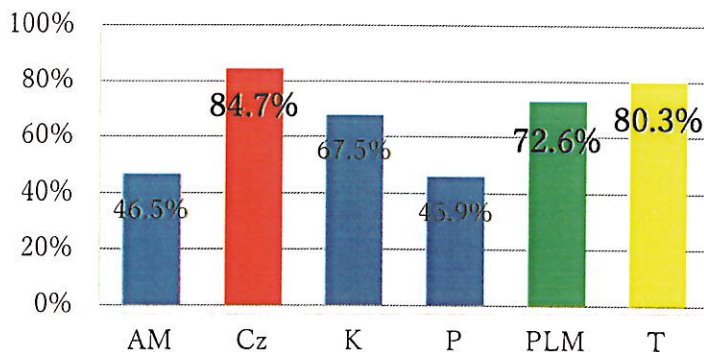


グラフ5 エンテロコッカス感受性割合

エンテロコッカスには治療の期待できない種と、期待できる種とがあり、弊社で実施している試験ではそこまで判定は出来ません（上記を区別するためには外部機関への検査委託が必要となります）。今回の結果は、治療が期待できるものと、そうでないものの両方が含まれています。

32 検体の内 3 検体は感受性薬剤なしでした。エンテロコッカスは P のみ感受性ありとなることがあるのが知られており、今回の結果も同様の結果となりました。しかし、最も感受性割合が高い P ですら 75% という結果になりました。OS やウベリスで最も感受性割合が高い Cz は、エンテロコッカスにおいては 3 割弱となりました。

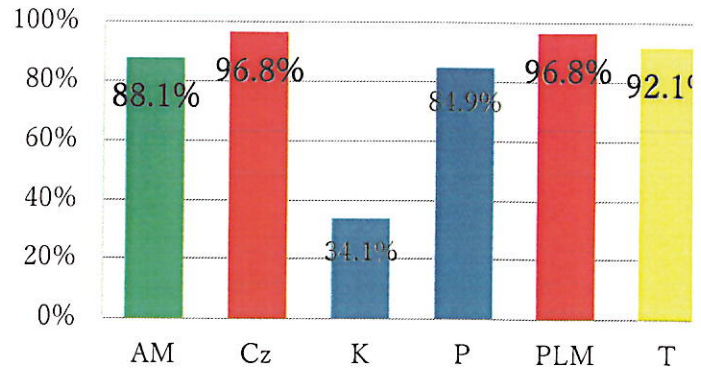
CNS(157)



グラフ6 CNS 感受性割合

CNS においても Cz が最も高い感受性割合を示しました。OS、ウベリス、エンテロコッカスとは逆に T が約 8 割と高い感受性割合を示しました。

SA(126)



グラフ7 SA 感受性割合

SA においては Cz、PLM が最も高い感受性割合を示しました。続く T、AM、P も 8 割以上の感受性割合を示しました。

最後に

やっと連日の暑さも落ち着き始めましたね。乳房炎発生数も多かったのではないのでしょうか？弊社で行っている乳汁検査数は、いつにもなく大量でした。乳房炎が多く、軟膏注入・注射等の治療やバケツ搾乳等いつも以上に手間がかかったのではないのでしょうか？気温が下がるにつれて減少していくであろう乳房炎、少し余裕が出来るこの機会に今一度乳房炎治療に対する抗生剤の選択や治療期間について見直してみたいかがでしょうか？

先月から 2 カ月にわたり紹介した原因菌種割合や各細菌の感受性割合は、飼養環境等様々な農場から検査依頼又は診療時に採材した検体です。したがって、全ての農場に当てはまるものではありません。感受性割合などを参考にして抗生剤を選択又は変更しても、症状に改善が無い場合は、乳汁検査を依頼するか獣医師に相談してください。

富田大祐



Total Herd Management Service